

ドイツでの国際学会を終えて

工学府電気電子工学専攻M2 尾上 雅俊



研究の概要

メタンガスを原料ガスとした特異なプラズマを用いて、カーボンナノチューブやフラーレンに続く炭素系新材料合成を大きな目標に研究を行っています。研究テーマである「低圧メタンプラズマにおける球状粒子の微細構造とその成長に関する研究」は、このような特異なプラズマで合成されたμサイズの球状粒子を今後応用するための第一段階として、成長メカニズムと微細構造を解析するというものです。今回の実験から球状粒子の成長メカニズムは従来の薄膜成長様式とは異なるプロセスをたどることが証明され、球状粒子の核となる微粒子の存在も観察するこ

とができました。

3時間ものポスターセッション

ドイツの南に位置するガルミツシュールパルテンキルフェンで行われた今回の国際会議。ポスター発表後の率直な感想は、「あつという間の一言でした。飲食を行いながら、和やかなスタートを切ったと思った矢先に中国人、チェコ人、フィリピン人、ドイツ人：と次々に違う国の人々が質問にきました。私自身英語が得意ではないことに加え、国により発音が非常に異なることに戸惑いながらも必死に聞き取り理解しようとして奮闘しました。私のつたない英語でも真剣に聞いてくださる人が多く、多くの意見をいただくこともできました。このような中ふと時計を見ると3時間もたっており、初の国際学会は時間を忘れるほど必死でしたが非常に楽しく、また英語の重要性の認識、新たな課題の発見ができた場となりました。

ドイツ最高峰の山へ

今回の会場の大きな観光スポットであるツークシュピッツェ山。標高はおよそ3000mで、ドイツ最高峰の山です。ここにはドイツ一高いビアガーデンがあり、発表の次の日に向かうことにしました。朝起きると前日までのどしゃぶりが嘘であるかのような快晴で、登山日和でした。このような高い山にも関わらず、麓から頂上まで1本の長いゴンドラでほんの10分で到着。その間すごい速さで登っていく足元の景色が徐々に小さくなるにつれて心臓の鼓動が速くなっていくのがわかりました。頂上に着くと、とにかく寒い：そして空気が薄い：。しかし、それを忘れてしまうほど広大な景色が広がっていました。ビアガーデンもほぼ満席でにぎわっており色々な人たちと交流を深めることもでき貴重な体験が



ツークシュピッツェ山にて

できたと思います。

今回の学会を通して自身の英語能力の未熟さやその重要性を再認識し、さらにモチベーションを上げることができました。この経験を忘れずに、今後の研究生活・社会にでてからの仕事に生かしていきたいと思っています。最後に、奨学金を援助していただいた明専会に厚くお礼申し上げます。

会議名

Diamond 2011 Conference_Gar-misch
発表テーマ

Fine structure analysis of spherical carbon particles produced in a methane plasma



学会会場にて